

2017年7月9日(日)朝10:10  
7月第2共同主日礼拝式説教

主の聖霊降臨節第6、自由交歓会等  
日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：7つの金の鉢；第2の金の鉢:血の海

聖書:ヨハネの黙示録 16章3節

＜口語訳＞

新約聖書401頁

ヨハネの黙示録 16章3節

＜新共同訳＞

新約聖書470頁

ヨハネの黙示録 16章3節

＜新改訳第3版＞

新約聖書493頁

ヨハネの黙示録16章3節

＜塚本訳＞

新約聖書809頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7つの教会への手紙、4～5章は、仔羊(羔羊)礼拝と大讃美、6～9章は、聖徒の戦い、10章は、神の恵みの啓示と審判、11章は、主の王即位と24人の長老の神礼拝、12章は、女性及び天使と龍(悪魔・サタン)との戦い、13章は、獣との戦い、14章は、小羊への大讃美、福音啓示と諸国への裁き、バビロン倒壊、神無視の人々への裁きと信仰者への忍耐の求め、殉教者の幸福と内住の御霊の声、再臨の御子の刈りと天の穀倉への格納、神の怒りの葡萄刈りと酒槽投入、15章は、金の鉢による神の最終裁き序曲、16章1節は、神の怒りの満ちた金の鉢の用意と命令、2節は、腫物による裁きです。

◇ヨハネの黙示録16章3節は、神の怒りの満ちた第2の金の鉢の注ぎと血の海による獣と礼拝者への裁きです。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第16章3節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録16章3節；ヨハネは、第2の金の鉢の注ぎと血の海による獣と獣礼拝者の裁き施行を見ます。

◇16:3；塚本訳◆**第一金の鉢——血の海**

「3 第二の天使がその鉢を海に注いだ。するとそれが死人(の体)から出たような血になり、海にいる生物は悉く死んでしまった」と、ヨハネは、獣礼拝者を血の海によって神が裁かれる幻を見たのです。

◇3節；「**第二の天使がその鉢を海に注いだ**」結果、「それが死人(の体)から出たような血になり、海にいる生物は悉く死んでしまった」のです。

⇒「**血の海**」は、出エジプト記7:19～24で、モーセがエジプト王パロに対する**神の裁き**として、ナイル川を血にしたしるしでした。

- ⇒「**血**」は、創世記9:4等にしるされている通り、「**命**」でしたから、「**血のあるままで肉を 食べることを禁じられて**」いました。
- ⇒「**犠牲の動物の血**」は、「**その雄牛の血を取り、指をもって、これを祭壇の角につけ、その残りの血を祭壇の基に注ぎかけなさい**」(出エジプト記29:12)と、律法では定めて、取扱われていました。
- ⇒そして、年に1度、「**契約の血**」として、至聖所に持ち運ばれ、「**アロンは年に一度その角に血をつけてあがないをしなければならない。すなわち、あがないの罪祭の血をもって代々にわたり、年に一度これがために、あがないをしなければならない。これは主に最も聖なるものである**」(出エジプト記30:10)と、規定された通り、贖罪所と呼ばれる契約の箱の上に「**犠牲の動物の血**」は、注がれたのです。
- ⇒ヨハネ黙示録16:3においては、「**血**」が、「**海**」に注がれ、「**死人(の体)から出たような血になり、海にいる生物は悉く死んでしまった**」と、記録されています。
- ⇒「**赦しの血**」ではなく、裁きの血となっています。

- ⇒「**腫物**」や「**血**」自体が、裁きの原因ではなく、エジプト王パロが、モーセが仕える**神の命令**に聴き従わず、また**黙示録**では、「**獣**」が、「**龍(悪魔・サタン)**」に聴き従い、「**神**」に叛くことをしたため、「**血の海**」とし、「**獣と獣礼拝者**」を裁かれたのです。
- ⇒「**腫物**」による裁き同様、「**血**」による裁きも、「**神のご支配**」を否定することへの**神の裁き**なのです。
- ⇒「**神礼拝**」は、基本的に、「**神を愛し、神に聴き従う**」ことが、その本質の行為です。
- ⇒「**神の教会の交わり**」は、「**神礼拝**」を抜きにしては、何の意味も持たないのです。
- ⇒「**龍(悪魔・サタン)**」は、最初の人アダムと妻のエバに近づき、「**神のことば**」に少し加えたことばで誘惑しましたが、それは優しいことばでした。
- ⇒詐欺師が、本心を隠して、優しいことばで誘惑するのと同じで、「**龍(悪魔・サタン)**」や「**獣**」、地上や海上を支配する者らは、「**人間の心の満足**」を見抜いています。
- ⇒「**裁き**」は、**人間の心の本質**でもあるのです。

- ◇3節;「死人(の体)から出たような血になり、海にいる生物は悉く死んでしまった」という神の裁きに対して、「10 二十四人の長老は(その座を立ち、)王座の上に坐し給う者の前に平伏して、永遠より永遠に生き給う者を拝し、彼らの冠を玉座の前に投げ出して言う
- 11 われらの主なる神よ、貴神は(凡ての創造られたものから)栄光と栄誉と権能とを受け、(また凡ての創造られたものを支配し)給うに相応しい。万物を創造り給うたのは貴神であり、万物は貴神の御意によって存在し、また創造された(のである)からである」と、告白した「神につく聖徒らの讚美のことが」を心にとめて、生かされたいと願います。
- ⇒「**神礼拝、神聴従**」には、何らかの迫害はついて来ますが、「**神讚美**」の心は、「**龍(悪魔・サタン)**」や「**獣**」は、奪えませんが、それらは、彼等には無用の長物だからです。
- ⇒「**つぶやき**」、「**思い煩い**」などを、「**神の御子**」も、**譬**や**比喩**をもって、「**神のこどもたち**」には、不必要なものであることを示されました。
- ⇒「**血の海**」は、**神なき世界・生活**のしるしです。

## 結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」で、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通し(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録と理解。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7つの教会への手紙、4～5章は、仔羊(羔羊)礼拝と大讃美、6～9章は、聖徒の戦い、10章は、神の恵みの啓示と審判、11章は、主の王即位と24人の長老の神礼拝、12章は、女性及び天使と龍(悪魔・サタン)との戦い、13章は、獣との戦い、14章は、小羊への大讃美、福音啓示と諸国への裁き、バビロン倒壊、神無視の人々への裁きと信仰者への忍耐の求め、殉教者の幸福と内住の御霊の声、再臨の御子の刈りと天の穀倉への格納、神の怒りの葡萄刈りと酒槽投入、15章は、金の鉢による神の最終裁き序曲、16章1節は、神の怒りの満ちた金の鉢の用意と命令、2節は、腫物による裁きです。

◇ヨハネの黙示録16章3節は、**神の怒りの満ちた第2の金の鉢の注ぎと血の海**による**獣と礼拝者への裁き**です。

⇒「**神の栄光の御座**」での「**24人の長老**」と「**4つの生き物**」の**神礼拝・神讚美**は、「**主キリスト・イエス様が天のみならず、地の上・この世でも、王となり給うたことを感謝**」する結末を与えられています。

⇒地上に今生かされています私たちも、「**神礼拝・神讚美**」は、この幻のように実現することを信じて、「**主がこの世の王となり給うたことを感謝**」すると、告白しています。

⇒「**死**」という最大の苦難を思う前に、「**恵みの約束の神**」に思いを向けたいと、願います。

⇒ヨハネ黙示録は、「**苦難**」先にある「**神の救い**」という「**神の恵み**」を見せ、また指し示します。

⇒「**龍(悪魔・サタン)**」は、「**神のようになる**」目的を放棄していませんで、「**天では**」、「**彼らの(いる)場所が無くなった**」のですが、投げ落とされた地上で、「**神礼拝者・神信仰者**」を「**訴える本務**」を放棄することはしません。



- ⇒**神は、144,000人の殉教者の訴える祈り、を聞き、「獣礼拝者・龍(悪魔・サタン)礼拝者」とその誘惑に負けた人々に「神の怒り」をもって、復讐して下さるのです。**
- ⇒**決して、神の怒りに先立ち、「獣礼拝者・龍(悪魔・サタン)礼拝者」とその誘惑に負けた人々を裁かず、むしろ、その罪・咎に気づけるように執成しをすることが求められています。**
- ⇒**多くの信仰の仲間の殉教を目にして絶望的になっている老使徒ヨハネに「今から後主にあって死ぬる死人は幸福である」、「彼らはその労苦を休息む(ことが出来る)」、「その(為した)業が彼らに随いて行く」と天から声と神の内住の御霊の声が与えられて、大きな慰めを神は与えて下さったのです。**
- ⇒**「穀物の刈り取り」、「主にある死人の勝利」は、「雲の上に人の子の再臨」のより実現します。**
- ⇒**その実現の時まで、神の聖徒に求められるのは、「神信仰と忍耐」(黙示録13:10、14:12)です。**
- ⇒**神のご計画は、時が来れば、事は行われる(237頁)のです。**

- ⇒ **14～16節**では、**人の子なる神の御子**が、**死人の勝利**の刈り取りをしたのに対し、**17～20節**では、**第5の天使、第6の天使**による**葡萄の刈り集め**は、「**神の憤怒の大きな酒槽** (さかぶね)」に投げ入れるという結末が語る通り、**神の怒りの復讐**が啓示されています。
- ⇒ 茲でも、**神の聖徒に求められるのは、「神信仰と忍耐」**です。私たちに**神**が期待されるのは、**①神礼拝に忠実であり、②神が創造した全ての人間が、神のみことばである聖書に聴く機会が与えられるように執成し祈ること**です。
- ⇒ **黙示録15:1**の**天の大きな、驚くべき徴**は、**神に反逆する者への「神による最後の災厄・神の憤怒」**です。それは、想像を絶する時間の経過を必要とする通告ですが、**神の預言**は必ず成就します。
- ⇒ **神の愛の律法・愛の福音**に聴き従い、**神礼拝**を通し、日々の聖書のみことばを静聴し、祈り、服従することを通して、「**神と隣人**」を愛し、「**最後の災厄**」から逃れる道を共に生きる**神の恵みの福音の道**をあかして生きたい！

◇15章2～4節では、**殉教者たちが、神の御座の前で、モーセが紅海渡渉を神の恵みとして神を讃美したように、申命記32章3～4節の聖句を用いて、神が罪から決別された存在であり、神が語られたことばを確実に実行されることを神讃美に託しているのです。**

⇒これから起きる大患難も、殉教者にとっては、**神が語られたことばに忠実であることを示される出来事として、神讃美の中身に含めているのです。**

⇒**神の裁き自体**を讃美しているのではなく、**神の真実**を告白しているのです。

⇒今日の教会に求められますのは、**神の真実**を告白する方法が、**神讃美**であるとともに、**神への執成しの祈り、神の赦しの恵み**が凡ての人々に与えられるようにと願うことなのです。

⇒「**神への祈り**」は、一般の人々からは空虚な働きに見えるかも知れませんが、「**主なる神よ、全能者よ、御業は大なるかな、驚くべきかな！**」なのです。

⇒どんな偉大な人間でも、**神の真実のわざ**を超えることはできないのです。

- ⇒ **黙示録15:5～16:1**では、「**天にある証の天幕の聖所**」が、「**開かれ**」、「**神の怒りの金の鉢**」が、「**7人の天使たちの手に**」渡されるのと、「**天にある証の天幕の聖所からの命令**」の声をヨハネは聴いたのです。
- ⇒ 今日の私たちは、「**神の怒り**」を「**金の鉢**」に盛らず、「**神の愛と赦しの福音**」を盛りたいと願います。
- ⇒ **黙示録16:2**では、「**神の怒りの酒杯・金の鉢**」が、「**獣と獣礼拝者**」に注がれ、「**神の酷い悪性腫物**」で打たれたことが、幻で示されていました。
- ⇒ 「**神礼拝者**」は、これを警告として聴きつつも、**黙示録5:8**で示されていたように、**神に反逆を繰り返す危機の時代**であるからこそ、「**金の鉢**」には、**恵みの神への祈りのしるし**である**香**を盛って、**神の至聖所**に向かう「**神の祭司**」の任務を果たさせて頂きたいと願います。
- ⇒ **黙示録16:3**「**血**」による**神の裁き**、「**血の海**」は、「**死人(の体)から出たような血になり、海にいる生物は悉く死んでしまった**」ように、「**神なき世界・生活**」です。

⇒「10 二十四人の長老は(その座を立ち、)王座の上に坐し給う者の前に 平伏して、永遠より永遠に生き給う者を拝し、彼らの冠を玉座の前に投げ出して言う

11 われらの主なる神よ、貴神は(凡ての 創造られたものから)栄光と栄誉と権能とを受け、(また凡ての創造られたものを支配し)給うに相応しい。万物を創造り給うたのは貴神であり、万物は貴神の御意によって存在し、また創造された(のである)からである」と、告白した「**天の礼拝の讚美**」に与りつつ、地上にある「**神の教会の礼拝、讚美**」にも与って、心の本質を「**裁きの心**」から「**神聴従、神讚美の心**」へ日々造り変えていただきたいと願います。

⇒マルチン・ルターは、自身も弱い心の持ち主で、差別発言をしたり、問題行動も起し、後の時代に多くの禍根を残しました。

⇒併し、彼の死の床の生き方を見ます時、その心の弱さを知り尽くす神は、彼の心に平安を残し、彼の口を通して、多くの人々を祝福することばも残させて下さったのです。